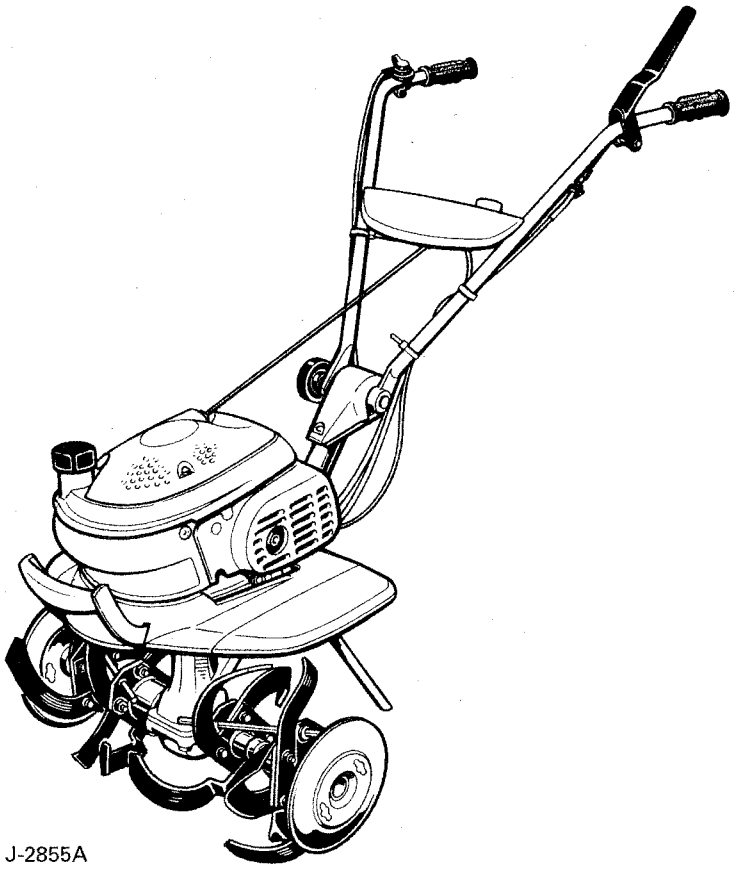
クボタ管理機

取扱説明書

TMA300



J-2855A

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ガソリン給油

チョークレバー

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

LK011-6512-4

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警　告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注　意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重　要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補　足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，農業機械であり，農作業以外では使ってはいけません。
夜間作業はしないでください。

目　次

⚠安全に作業するために …… ⚠-1

サービスと保証について …… 1

1. もうおぼえられましたか？ ● 各部の名称と装置の取扱い

各部の名称と装置の取扱い …… 2

2. 作業前にこれだけチェック ● 作業前の点検について

作業前の点検について …… 4
- ●調子良く作業するために …… 4
- ●安全に作業するために …… 5

3. このように運転します ● 上手な運転のしかた

ならし運転(最初の10時間程度使用まで)…… 6
エンジンの始動のしかた …… 6
停止のしかた …… 7
発進のしかた …… 8
ハンドル高さの調節 …… 8
ハンドルの左右回動 …… 8
リコイルスタート …… 8
抵抗棒の調節 …… 9
緩衝装置が働いた場合 …… 9
移動輪での運転のしかた …… 9
旋回レバー【S仕様】…… 9

4. こんなときどうする？ ● 管理機の簡単な手入れと処置

エンジンオイルの交換 …… 10
ミッションオイルの補充 …… 10
エアークリーナエレメントの清掃…… 11
燃料パイプの交換 …… 11
燃料の抜取り …… 11
点火プラグの調整・清掃・交換 …… 12
主クラッチケーブルの調節 …… 12
旋回レバーケーブルの調節【S仕様】…… 12
ナタ爪ロータ・フルカットロータ・
　移動輪の取付け方 …… 13
洗車時の注意 …… 14

5. 作業が終わったら

使用後の手入れ …… 15
エンジン始動不良を防ぐために …… 15
保管 …… 15
燃料の抜取り …… 15

6. 管理機を運搬するとき

自動車(トラック)への積込み，運搬 … 16

7. 付　記 ● 主要諸元・標準付属品・主な消耗部品一覧表

主要諸元 …… 17
標準付属品 …… 17
主な消耗部品一覧表 …… 18

8. トラブルと処置

エンジンが始動しない …… 19
エンジンの回転が上がらない，不安定，
　出力が不足する …… 19
異音がして，車軸が回転しない …… 19
ハンドルのガタが多い …… 19

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。イエローページについてはお買い上げいただいた本機と合致していない項目も含まれています。

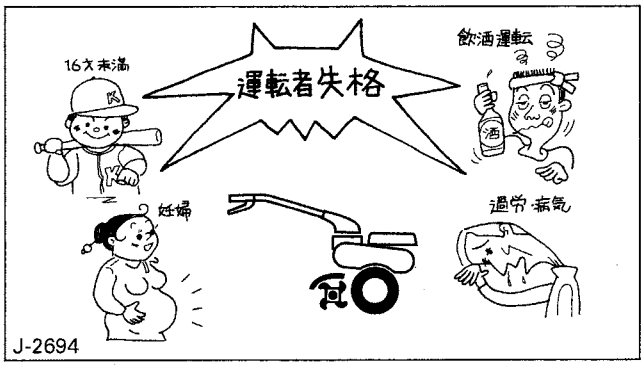
1．運転する前に

■使用する人は

機械の運転操作，特に主クラッチ**“切”**はすばやくできるよう，よく練習し，十分に慣れてから作業してください。

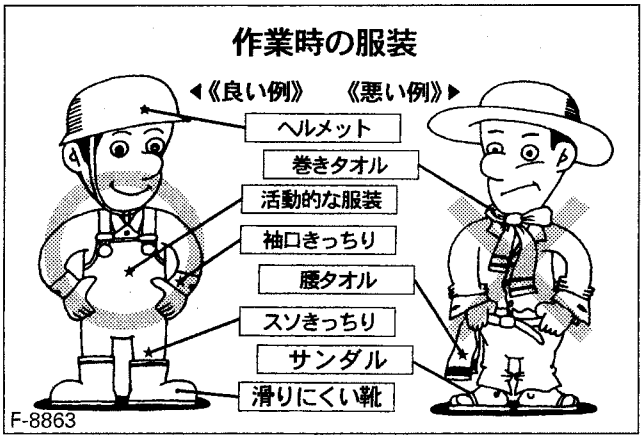
次の項目に該当する場合は，機械を使用しないでください。

＊本書及びラベルの内容が理解できない人
＊視力不足等のため表示内容が読めない人
＊飲酒時や体調が悪いとき，また妊娠中の人
＊16才未満の人
＊ハンドルを操縦する体力に自信のない方



■使用する人の服装は

＊回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になる，だぶついた服，腰タオルなどはやめてください。
＊ヘルメット，安全靴，保護メガネや手袋などを必要により着用してください。

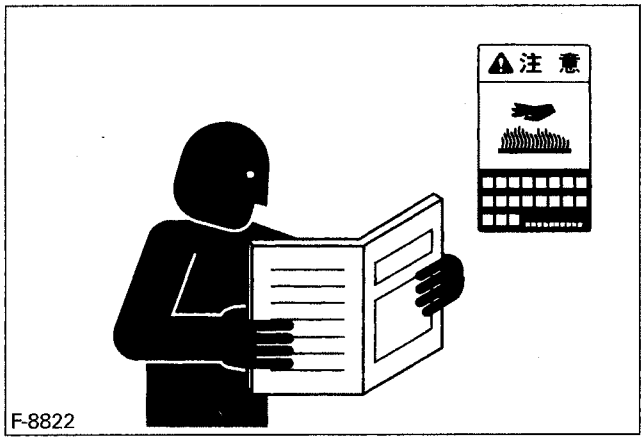


■周囲への注意

＊子供，ペットを近づけないでください。
＊見物人を近くに寄せないでください。
＊共同作業者がいるときは，互いに注意してください。

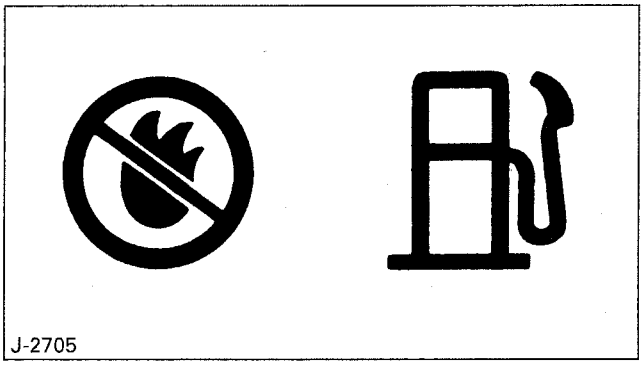
■他人に貸すときは

＊事前に運転のしかたを教え，**“取扱説明書”**を必ず読んでもらってください。



■給油・注油するとき【火気厳禁】

＊燃料の給油・各部への注油時は必ずエンジンを停止し，規定量以上入れないでください。
＊エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災のおそれがあるので給油はしないでください。
＊煙草を吸ったり火気を近づけないでください。
＊こぼれた燃料はふき取ってください。



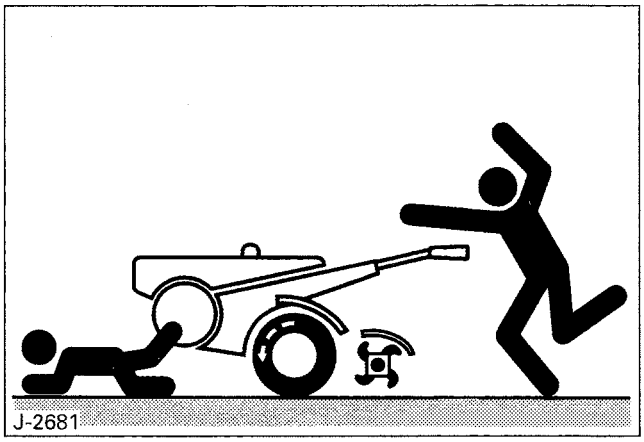
⚠ 安全に作業するために

2．始動するとき

■エンジンを回すとき

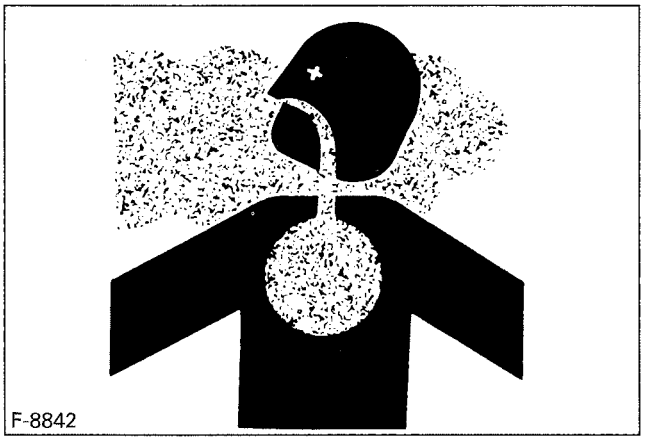
＊必ず本機，ロータリ(作業機)の主クラッチレバーを“切”変速レバーは“中立”にして，付近に人(特に子供)を近づけないでください。

＊もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になるおそれがあります。



■排気ガスに注意

排気ガスによる一酸化炭素中毒のおそれがあるので，換気の悪い所(ハウス，車庫等)では使用しないでください。



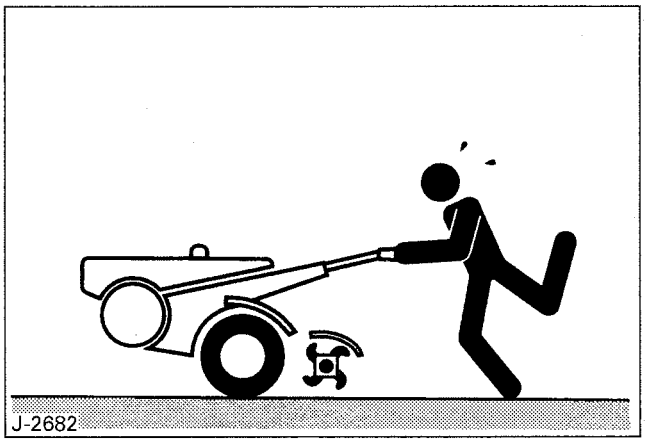
3．移動，作業するとき

■発進するとき

＊速い速度での走行は充分注意してください。

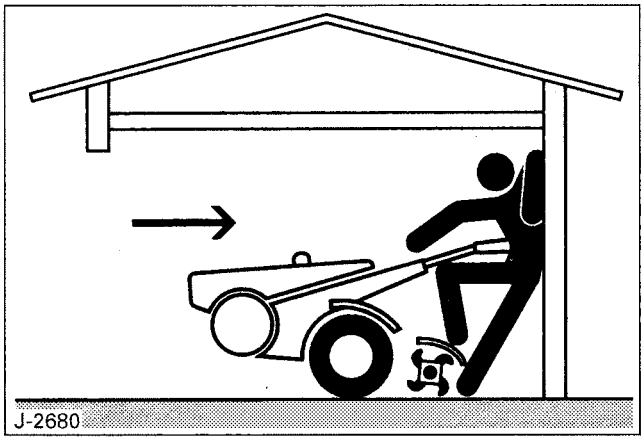
＊車速の最低速で主クラッチレバーの“入”はゆっくり，“切”はすばやくの操作を習熟した上で使用してください。

＊小走りになるようなスピードを出したり，急発進，急旋回はしないでください。



■ハウス，車庫等での移動

＊後方の壁，支柱，天井など障害物にはさまれるおそれがあるので遅い車速で後進してください。

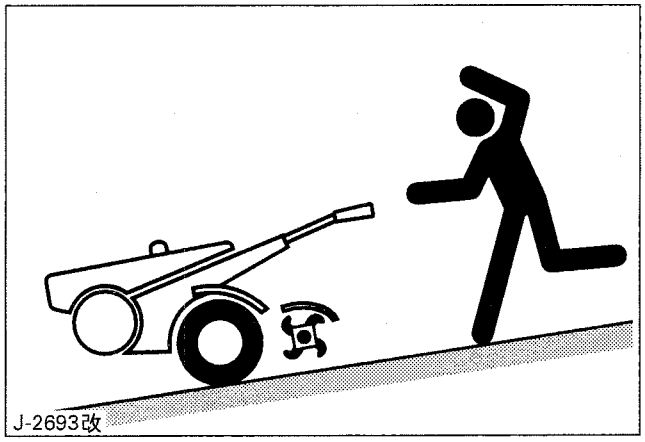


■坂道を移動するとき

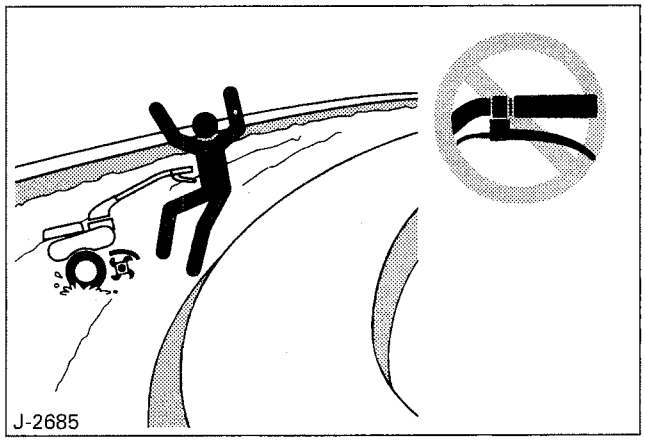
＊坂道，ほ場の出入り，畦の乗越え等の途中で主クラッチを**“切”**ったり，変速を**“中立”**にすると，機体が思わぬ方向に進み危険です。

＊変速操作は，平坦な場所以外では行なわないでください。

＊坂道や凹凸，カーブの多い路上で高速運転すると，転倒したりして危険ですから必ず低速運転してください。


J-2693改

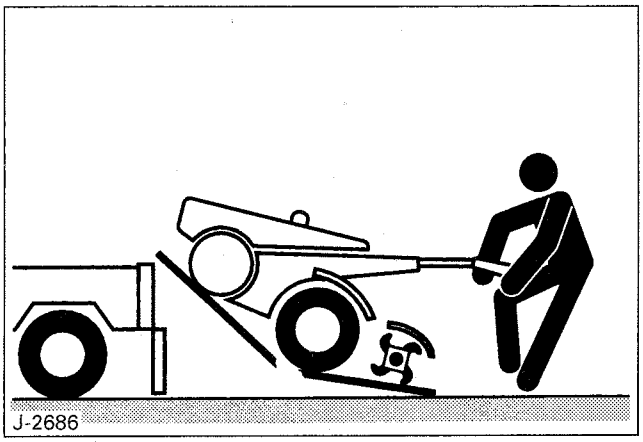
＊坂道で旋回レバーを操作すると，思わぬ方向に曲がり転倒のおそれがありますので，必ずハンドル操作で方向転換してください。


J-2685

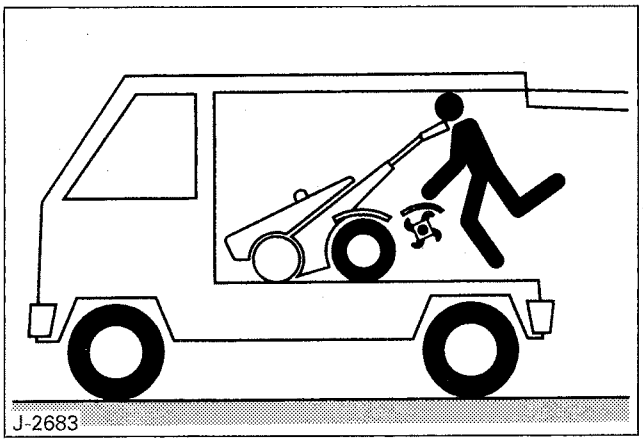
■積降ろしするとき

＊アユミ板は丈夫ですべり止めのあるものを使用し，確実に固定してください。

＊足元に注意し，車速は最低速で，上りは**“前進”**下りは**“後進”**で行ない，途中で主クラッチを切ったり，変速操作をしないでください。


J-2686

＊車などで運搬するときは，必ず荷台に天井がない車を使用してください。

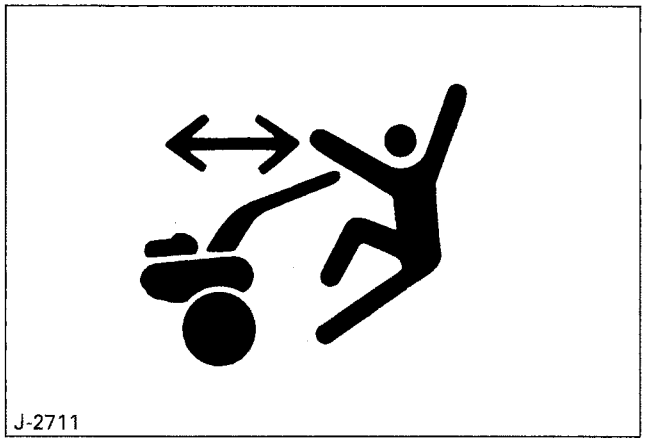

J-2683

⚠ 安全に作業するために

■耕うん作業するとき

＊車軸（ロータ），爪軸（ロータリ）作業開始時や作業中，機体が思わぬ方向に飛出し転倒や人身事故のおそれがありますので，いつでも主クラッチが**“切”**れる姿勢で運転してください。

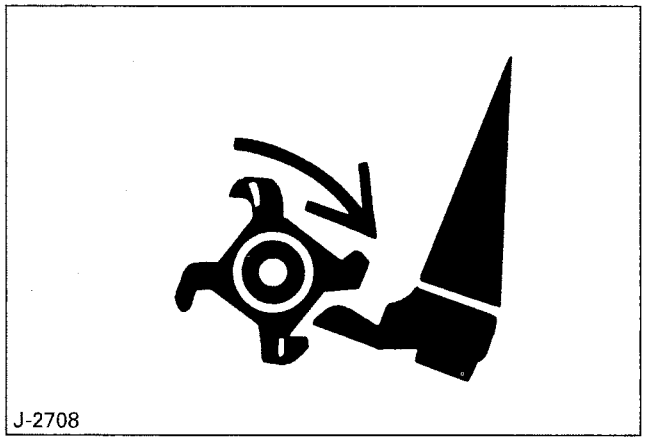
＊作業前に，ほ場の状態をよく確認して，石・材木・針金・空カン・空ビン等を取除いてください。



J-2711

■回転している爪に注意

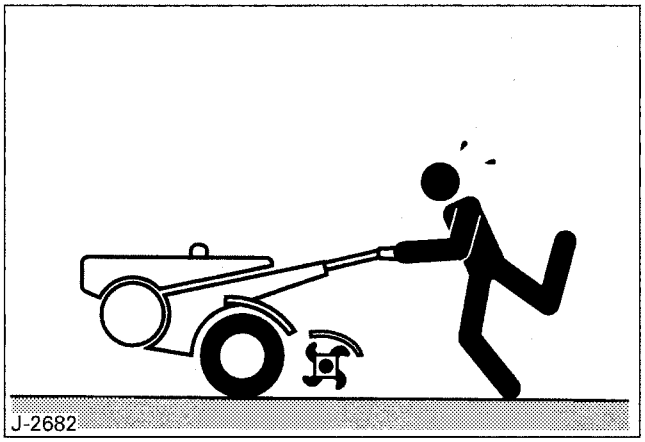
＊ハンドル部を持上げ旋回するとき，足元及び周囲に十分注意しないと回転する爪に巻込まれるおそれがあります。



J-2708

■ほ場が硬いとき

＊硬いほ場では車速を遅いめにして，耕深も浅いめで作業を行なってください。

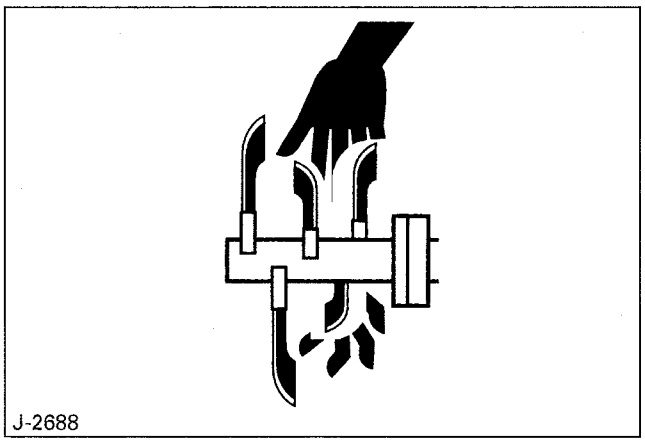


J-2682

4．作業が終わったとき

■掃除をするとき

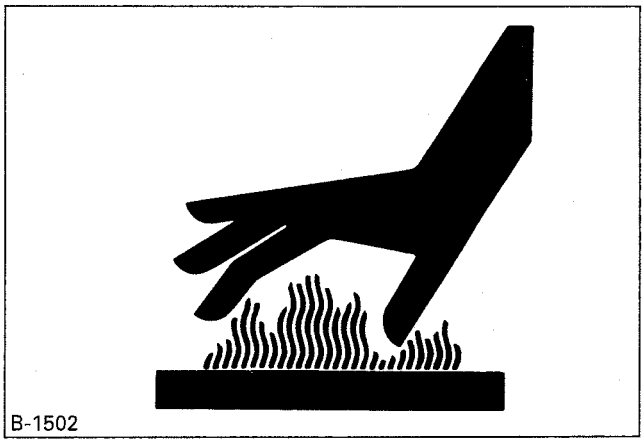
＊車軸（ロータ）爪軸（ロータリ）等に巻付いた草，ワラ，泥土等を取除くときは，巻込まれるおそれがあるので，必ずエンジンを停止してください。



J-2688

5．点検，整備をするとき

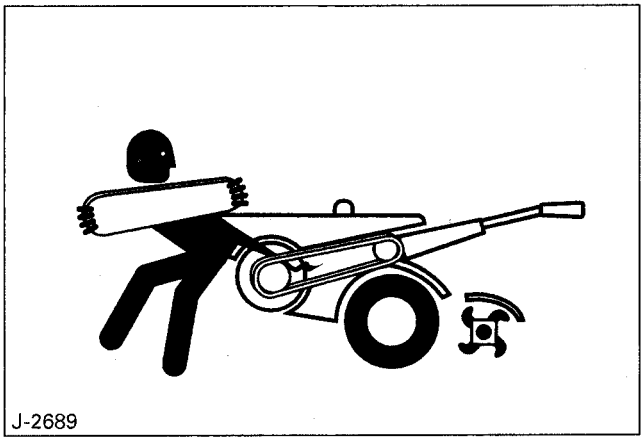
＊点検，整備，アタッチメントの脱着などは，機械が転倒しない平坦な所にスタンドを立てエンジンを止め，高温部が冷めてから行なってください。


B-1502

■カバー類は必ずつける

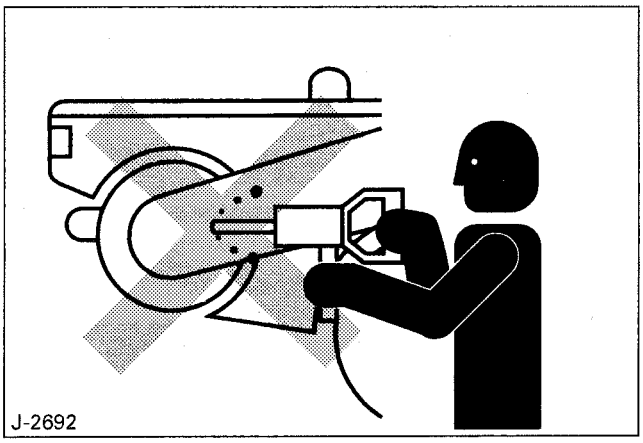
＊ベルトカバー，PTO軸カバーなどの防護カバーを取外すときは，巻込まれるおそれがあるので，必ずエンジンを停止してください。

＊取外したカバー類は元通り組付けてください。


J-2689

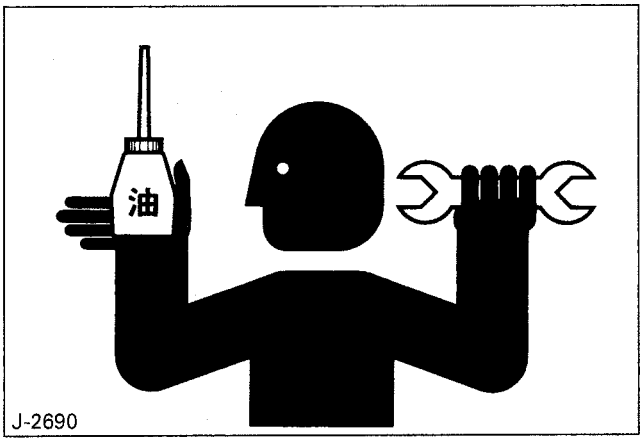
■機械の改造禁止

＊機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながるおそれがあります。


J-2692

■１年毎の定期点検を

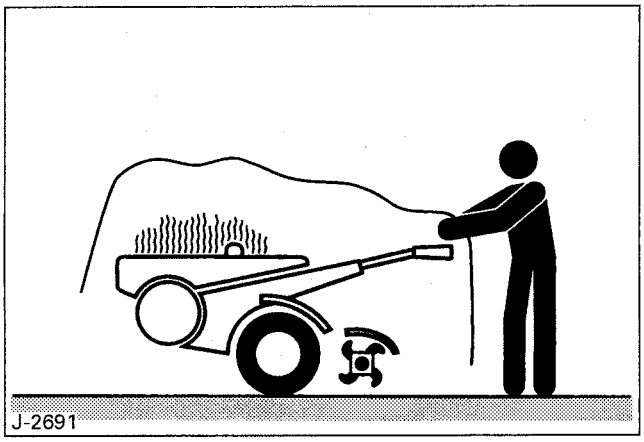
＊機械の整備不良による傷害事故などを未然に防止するため，１年毎に定期点検・整備を受け，特に燃料パイプは，２年毎に交換して安全に作業できるようにしてください。



J-2690

■格納するとき

＊機体に保管用カバーをかけるときは，火災予防のため高温部が冷めてから行なってください。

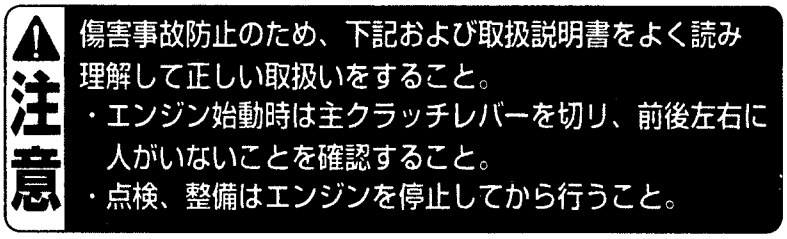

J-2691

⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。

6. ⚠表示ラベルと貼付位置

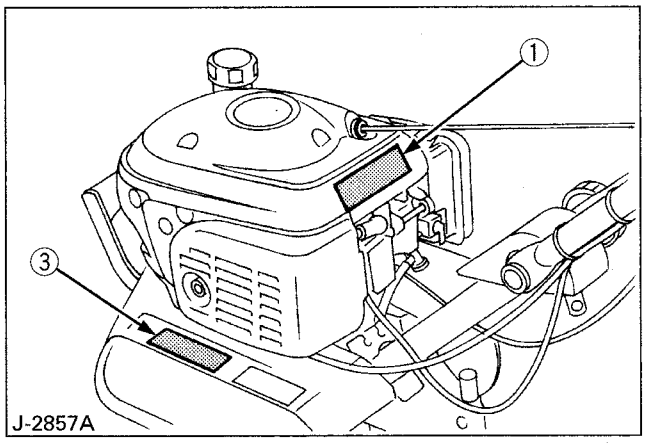
①品番　LK011-4715-1



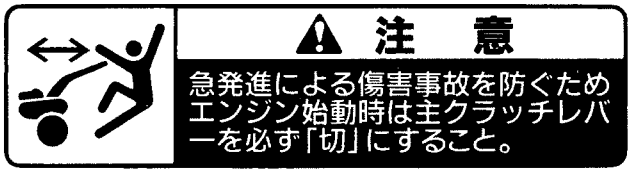
②品番　LK011-4724-1

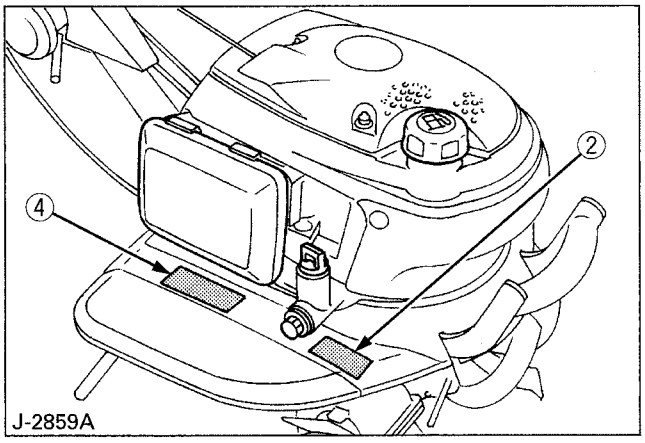
③品番　60932-4825-1

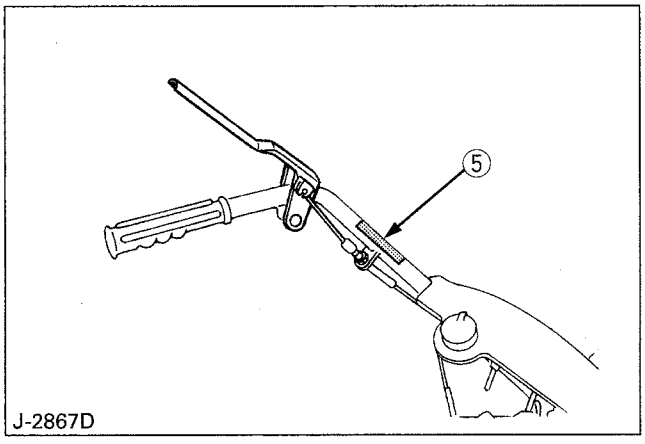
④品番　60802-4828-1



⑤品番　E3133-4823-1







7. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

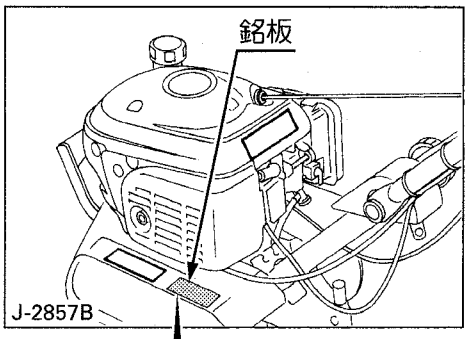
(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。



農業機械の種類		農用トラクター（歩行型）
型式名		クボタ　TMA300
区分		
搭載機関	型式名	GXV57
	連続定格出力	1.0kW/4000rpm 最大1.8kW(2.4ps)
製造番号		
発売元：株式会社クボタ		

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先に，それぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

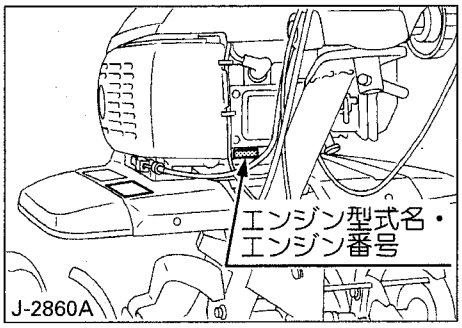
その際　(1)型式名と製造番号
　　(2)エンジン型式名とエンジン番号

を併せてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



注　意

＊トレーラ走行はできません。
小型特殊自動車の認定を受けておりません。
一般公道を走行すると，道路運送車両法に違反します。
一般公道を移動するときは，自動車(トラック)に積んで運搬してください。

◆安全鑑定適合番号
クボタ　TMA300　… 26163

■仕様について

この取扱説明書では，形式様式の異なる製品を下記のように表示していますので，お買い上げの製品の仕様をお確かめの上，お間違いのないようお願いいたします。

記号	仕　様
S	旋回レバー付
C	ナタ爪ロータ付
C2	フルカットロータ付

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切り後９年と致します。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

1. もうおぼえられましたか？ ● 各部の名称と装置の取扱い

主クラッチレバー

注 意

＊傾斜地／狭い場所で作業する場合，主クラッチはゆっくり操作してください。

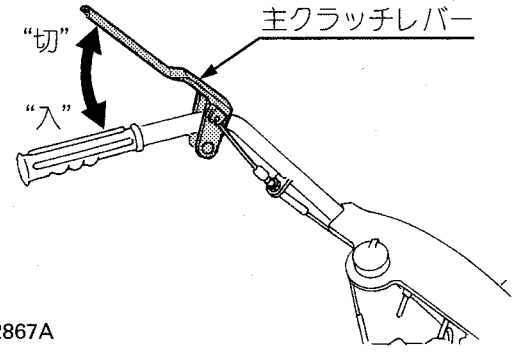
重 要

＊エンジン停止時，主クラッチレバーを握っても，握れないことがあります。本機を前後に移動させながらレバーを握ってください。

エンジンから車軸への動力を断続します。

＊主クラッチを「切」るときは，主クラッチレバーから手を離してください。

＊主クラッチを入れるときは，主クラッチレバーを手で押さえてください。



J-2867A

旋回レバー(左・右)【S仕様】

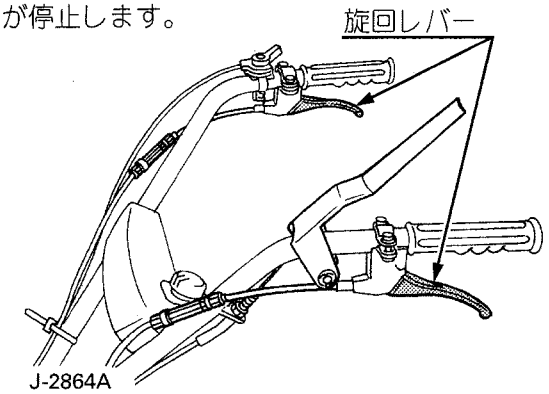
注 意

＊車両への積降ろし時や坂道では，絶対に操作しないこと。

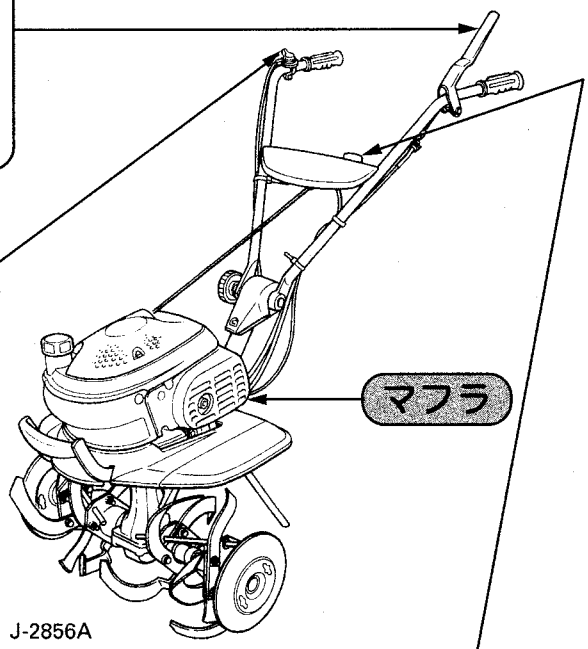
重 要

＊左右同時に握ることはできません。

旋回しようとしたとき，握ったレバー側の車軸が停止します。



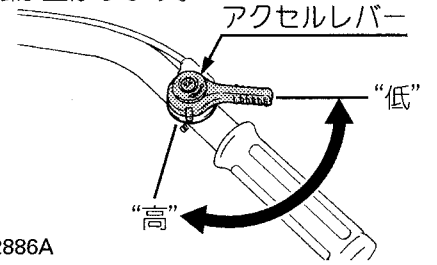
J-2864A



J-2856A

アクセルレバー

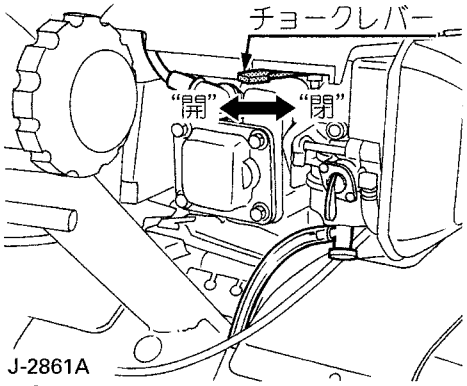
レバーを**“高”**の方向に回すと，エンジン回転が上がります。



J-2886A

チョークレバー

エンジンが冷えているときの始動時に操作します。

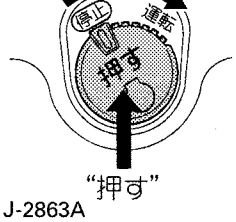


J-2861A

エンジンスイッチ

エンジンの運転・停止に用います。

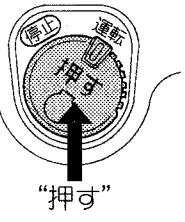
運転時



J-2863A

スイッチを押しながら(運転)位置に回します。

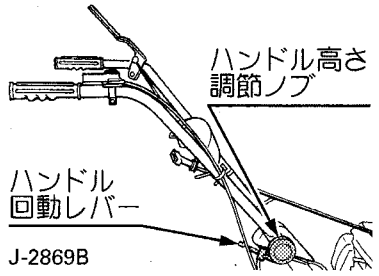
停止時



スイッチを押すと左に回り(停止)位置に戻ります。

ハンドル高さ調節ノブ
ハンドル回動レバー

“ハンドル高さの調節”,
“ハンドルの左右回動”の項参照(P8)



リコイルスタータ

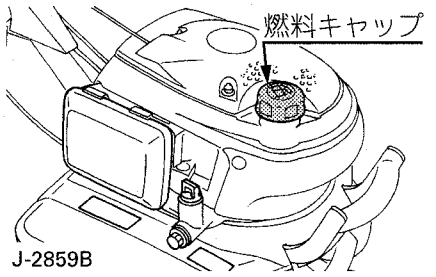
重 要

＊リコイルスタータハンドルをエンジン側に取付けると，ロープが巻き取れず，破損の原因となります。手元のみで使用してください。

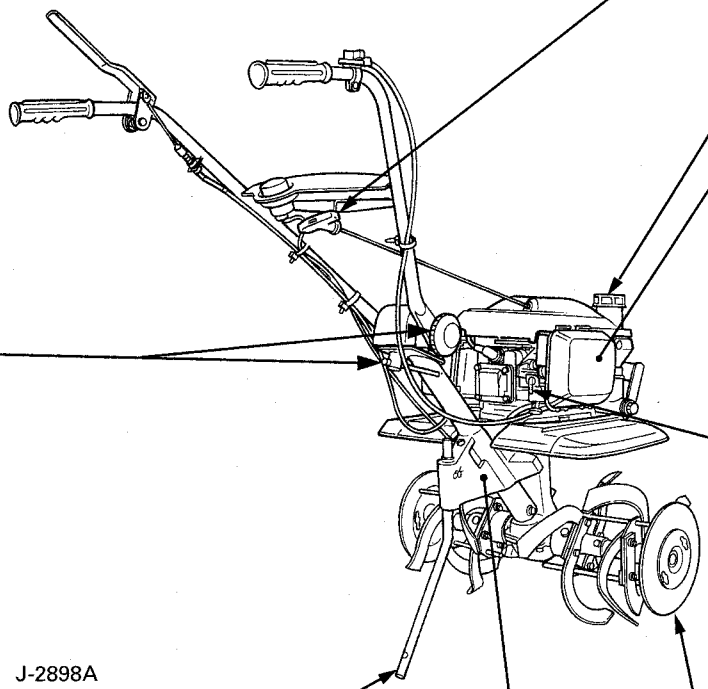
エンジン始動時に使用します。

燃料キャップ

自動車用レギュラーガソリンを使用します。



エアークリーナ

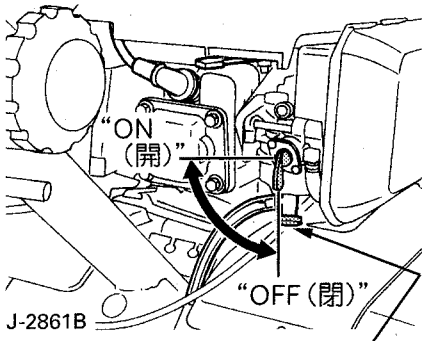


燃料コック

重 要

＊エンジン停止後，必ず燃料コックを閉めること。コックを開いた状態で，前に倒したり車両で運搬すると，エンジン始動が困難になる場合があります。

燃料タンクからエンジンへのガソリンの流れを断続します。



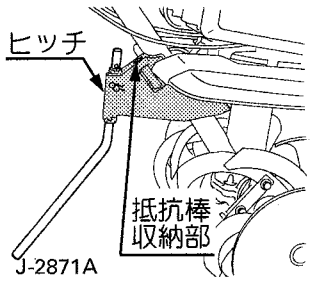
クイックドレン

“燃料の抜き取り”の項参照
(P11, 15)

抵抗棒

ヒッチ

抵抗棒・その他作業機を取付けるところです。



ナタ爪ロータ【C仕様】
フルカットロータ【C2仕様】

2. 作業前にこれだけチェック ● 作業前の点検について

警 告

＊点検時はエンジンを停止してください。

調子良く作業するために 〔詳細は"管理機の簡単な手入れと処置"の章参照〕(P10~14)

❶ 燃 料

➡自動車用レギュラーガソリンを補給します。
燃料キャップを外し，給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。

➡タンク容量……約0.7 L

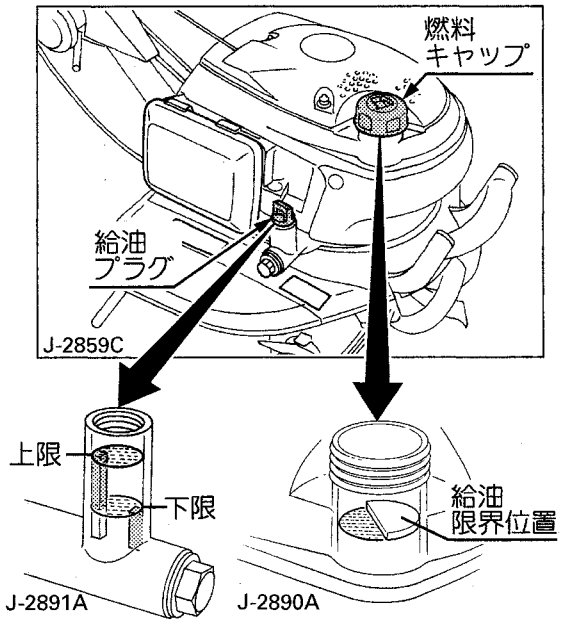
警 告

＊ガソリン給油中はエンジン停止・火気厳禁。くわえ煙草での給油はしないでください。

＊ガソリンがこぼれたときはきれいにふき取ってください。

重 要

＊水やゴミを混入しないようにしてください。



❷ エンジンオイル

➡エンジンを水平にして給油プラグを外し，オイル給油口内側のレベルゲージで上限まであるか点検します。

➡油面が下限に近い場合は，クボタ純オイルを補充します。
(夏……G30　冬……G20)

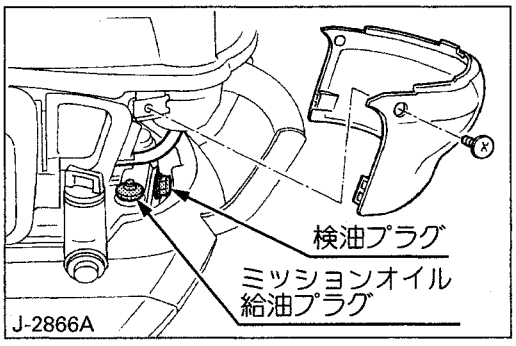
❸ ミッションオイル

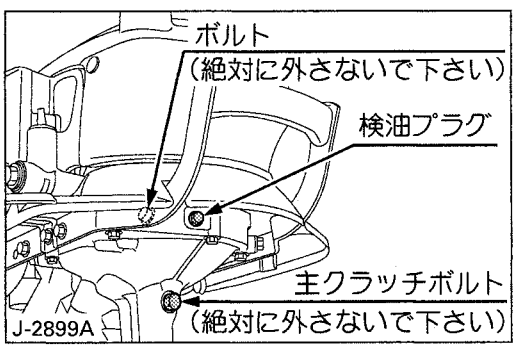
➡機体を水平にして，検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか点検します。

➡不足している場合は，クボタ純オイルを補充します。
(エンジンオイル G20又はG30)

重 要

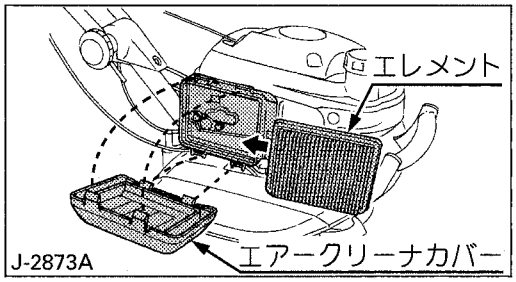
＊主クラッチボルトは検油プラグではありません。主クラッチ不良につながる恐れがありますので絶対に外さないでください。





❹ エアークリーナ

➡エアークリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。
➡汚れている場合は清掃してください。

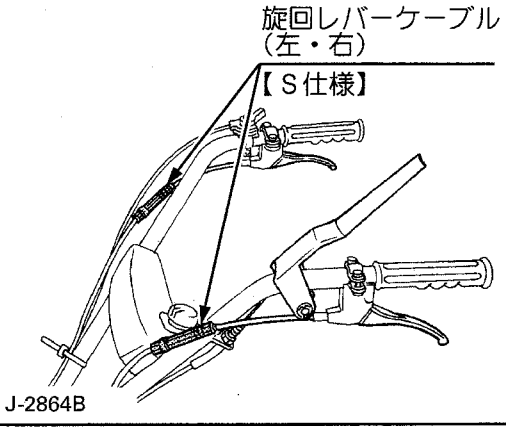


❺ 各ケーブル

➡ケーブル注油部より，エンジンオイルを注油します。

❻ その他

➡エンジン，ミッションなどから油もれがないか点検します。
➡各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
➡各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。



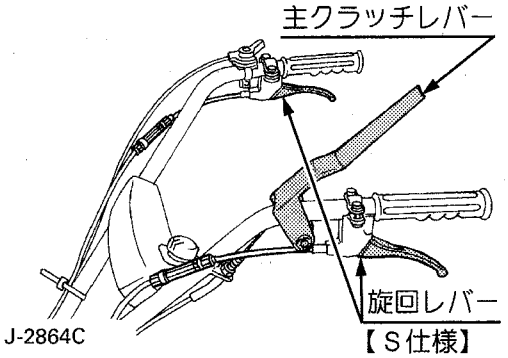
安全に作業するために

❶ 主クラッチ

➡クラッチの**"入・切"**が確実に行なえるか点検します。
➡不良の場合は調整・注油します。

重 要

＊エンジン停止時，主クラッチレバーを握っても，握れないことがあります。本機を前後に移動させながらレバーを握ってください。



❷ 旋回レバー

➡クラッチの**"入・切"**が確実に行なえるか点検します。
➡不良の場合は調整・注油します。

❸ 電気配線

➡被覆が溶けたり破れていないか，また配線がはさまれていないか点検します。

❹ エンジン周辺部

➡ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。

❺ ガソリン漏れ

➡タンクや燃料パイプからガソリン漏れがないか点検します。
➡自動車用レギュラーガソリンを補給します。
➡タンク容量……約0.7 L

3. このように運転します　●上手な運転のしかた

ならし運転（最初の10時間程度使用まで）

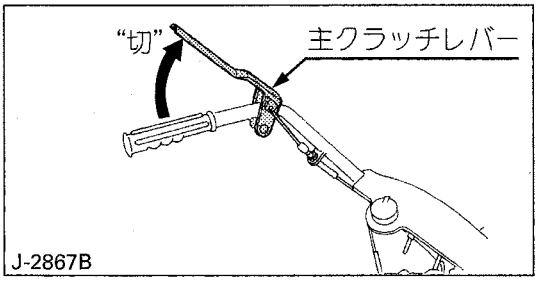
この期間中は各部になじみをつけるため，エンジンを高速回転させたり，過酷な使用は避け，無理をさせないようにしましょう。

エンジンの始動のしかた

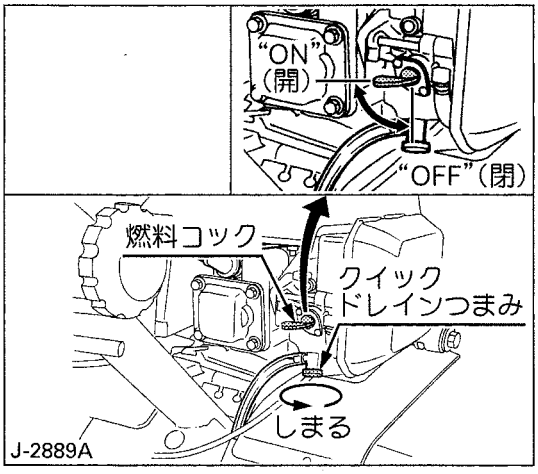
注　意

＊エンジンを始動するときは，主クラッチレバーから手を離してください。
＊エンジン運転中，マフラに手を触れないでください。
＊マフラの排気方向に，燃えやすいものがないか確認してください。
＊リコイルスタータの引張る方向に人がいないか，突起物・障害物がないか確かめてください。

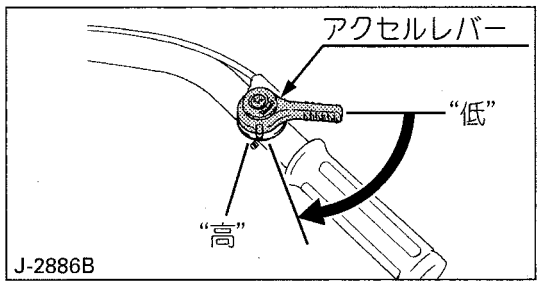
❶主クラッチレバーから手を離し，主クラッチが切れていることを確認します。



❷燃料コックを**"ON"(開)**にします。
クイックドレインつまみがしまっているか確認してください。



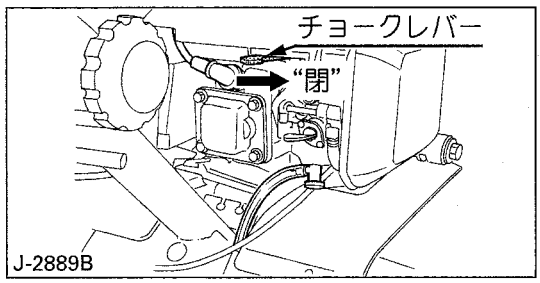
❸アクセルレバーを**"高"**と**"低"**の中間の位置にします。



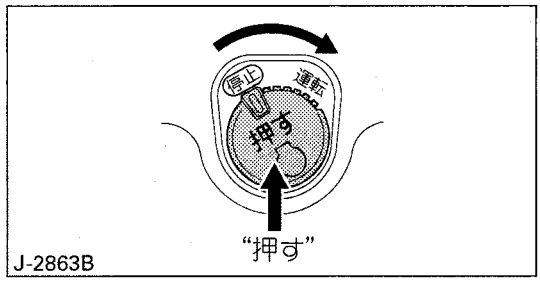
❹エンジンがかかりにくいときは，チョークレバーを**"閉"**にします。

補　足

＊エンジンがよく暖まっているときは，チョークの操作は不要です。



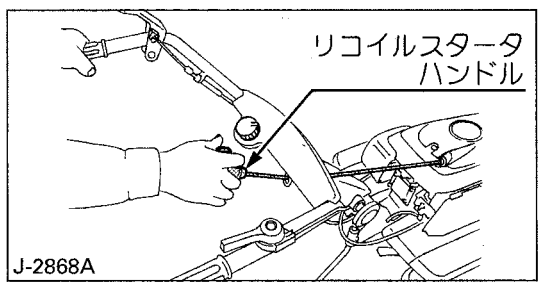
❺エンジンスイッチを押しながら**"運転"**位置まで回します。



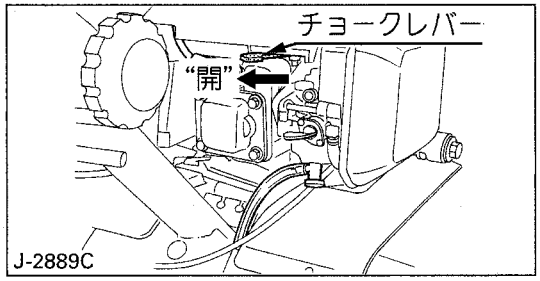
❻リコイルスタータハンドルを握って，引っ張ります。
エンジンが始動したら，リコイルスタータハンドルを静かに元に戻してください。

補　足

＊運転中はリコイルスタータを引かないでください。



❼エンジンの調子を見ながら，チョークレバーを徐々に戻します。(開く)



重　要

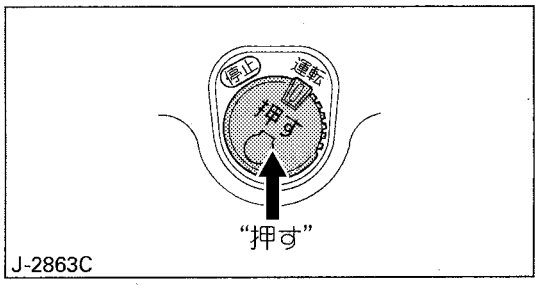
＊アクセルレバーを**"低"**に戻し，2～3分暖機運転を行なってから，作業を始めてください。

停止のしかた

注　意

＊エンジン停止後は，しばらくマフラが熱くなっていますから，手を触れないでください。

❶主クラッチレバーから手を離します。
❷スロットルレバーを**"低"**にします。
❸エンジンスイッチを押すと左に回り**"停止"**位置に戻り，エンジンが停止します。



❹燃料コックを**"OFF"(閉)**にします。

重　要

＊コックを開いた状態で保管したり，前に倒したり，また車両で運搬すると，エンジン始動が困難となることがあります。

発進のしかた

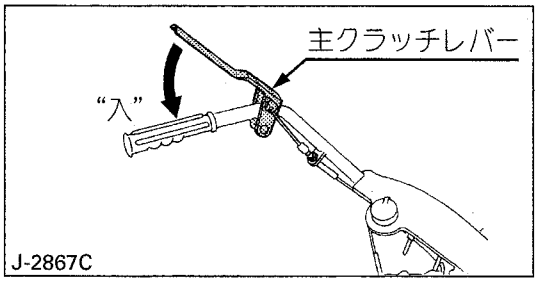
注 意

＊主クラッチレバーの操作は，ゆっくり行なってください。急激な操作を行なうと機体が飛び出し危険です。

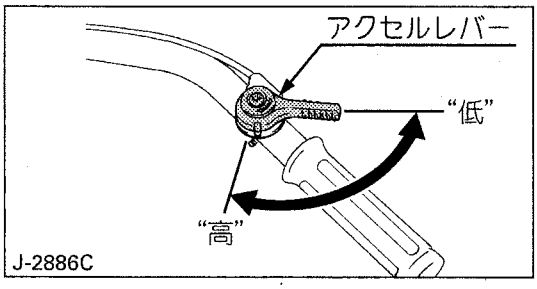
＊移動輪を取付けて移動するときは，必ずアクセルレバーを“低”の位置にし，エンジン回転を下げてください。
アクセルレバーが“高”の位置で主クラッチレバーを押さえると，機体が飛び出し危険です。

＊機体を持上げるときは，必ずエンジンを止めてください。ロータが回転して危険です。

❶主クラッチレバーを左手で下に押さえると発進します。

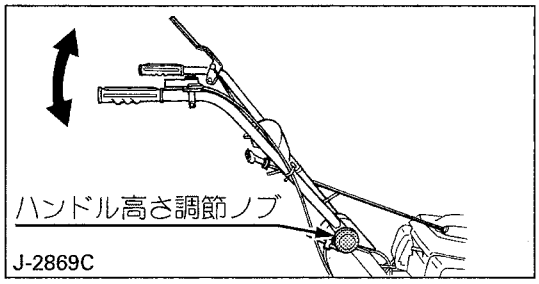


❷アクセルレバーを操作して速度を調節します。



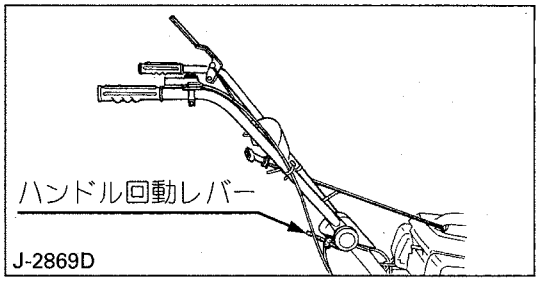
ハンドル高さの調節

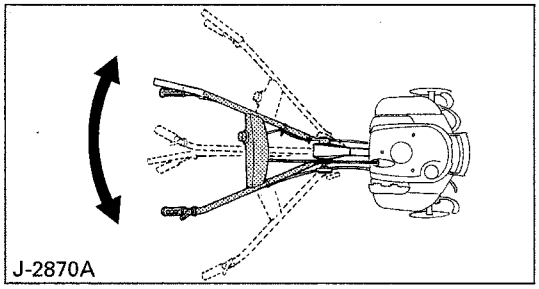
ハンドル高さ調節ノブを4～5回転ゆるめて，高さを調節してください。
ハンドルがガタつく場合は，六角部分をスパナで締付けてください。



ハンドルの左右回動

ハンドル回動レバーを4～5回まわしてゆるめると，左右にそれぞれ1段階(左右各22.5°)ハンドルを回動できます。



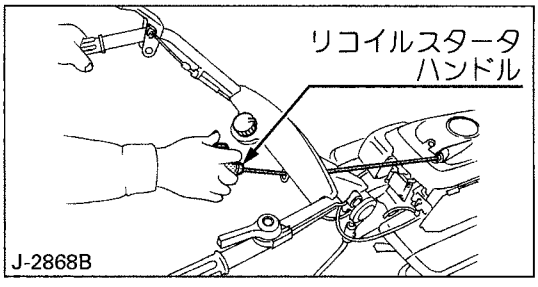


リコイルスタート

重 要

＊リコイルスタータハンドルをエンジン側に取付けると，ロープが巻き取れず，破損の原因となります。手元のみで使用してください。

＊ロープの引き代は約120㎝となりますので，それ以上は引張らないでください。



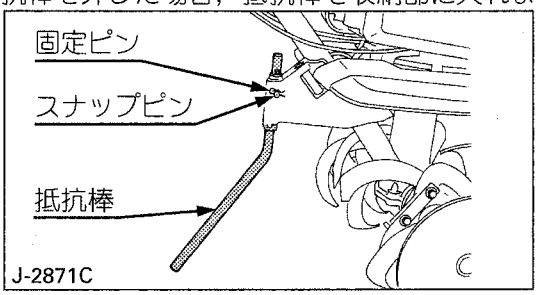
抵抗棒の調節

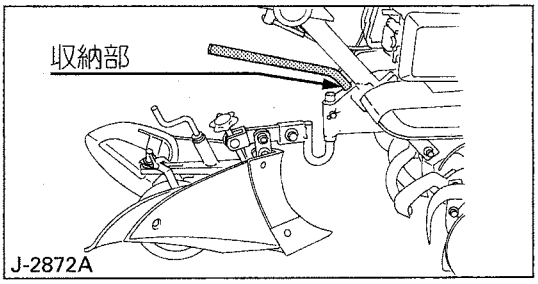
ヒッチ部に抵抗棒を入れ，使用したい高さに調節します。

(1)抵抗棒は 2 段に調節できます。

(2)調節後，固定ピンを差し込み，スナップピンで固定します。

抵抗棒を外した場合，抵抗棒を収納部に入れます。





緩衝装置が働いた場合

警　告

＊車軸回りの障害物を取り除くときは必ずエンジンを停止してください。

車軸が障害物により回転できない場合や，大きな力が加わった場合に機体保護のため，内部で緩衝装置が働き，車軸の回転が止まりますが，故障ではありません。

次の要領に従って行えば正常に戻ります。

❶すぐに主クラッチレバーから手を離します。

❷アクセルレバーを**“低速”**にします。

❸エンジンを止めます。

❹車軸回りの障害物を取り除きます。

❺エンジンを始動させたのち，アクセルレバーを**“低速”**に戻します。

❻主クラッチレバーをゆっくり押さえてください。

❼車軸が回転すれば正常です。

重　要

＊車軸に障害物を引掛けないように使用してください。

＊機体の内部で緩衝装置が働いた場合，すぐに本機を止めてください。

移動輪での運転のしかた

注　意

＊エンジンが高速回転時，主クラッチレバーを押さえると機体が飛び出し危険です。

移動輪を取り付けて移動するときは，必ずアクセルレバーを**“低”**の位置にし，エンジン回転を下げてください。

旋回レバー【S仕様】

重　要

＊旋回レバーは左右同時には握ることはできません。

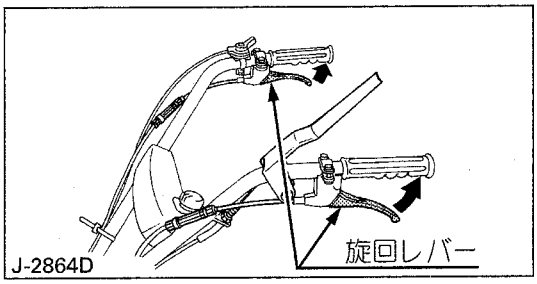
左側レバーを握ると左側車軸が停止します。

右側レバーを握ると右側車軸が停止します。

■旋回のしかた

左側レバーを握ると左側車軸が停止しますので，ハンドルを持ち上げ抵抗棒等を地面から離すようにして旋回してください。

（右旋回はその逆になります。）



補　足

＊作業中はできるだけ旋回レバーを握らないようにしてください。ハンドル操作での作業をしてください。

＊停止時は旋回レバーを握っても，レバーを握れないことがあります。機体を前後に移動させながらレバーを握ってください。（故障ではありません。）

＊作業中，左側旋回レバーは主クラッチを「入」の状態にして握ってください。

＊ロータ等の装着時

旋回レバーを握ったとき，ロータ等の同時打ち込みが変わりますので，ハンドル等が左右にふれることがあります。そのときは同時打ち込みになるように旋回レバーを握って合わせてください。

4. こんなときどうする？　●管理機の簡単な手入れと処置

注　意

＊給排油・点検・調節・清掃は必ずエンジンを停止して行なってください。
＊抵抗棒又は作業機を取付けて機体を安定させて行なってください。

廃棄物の処理について

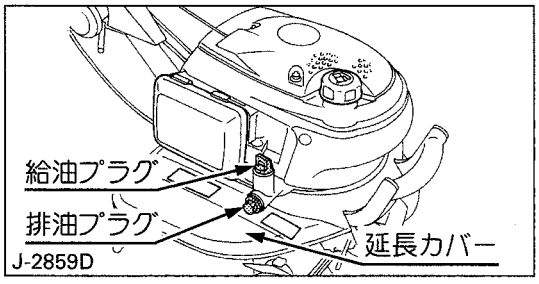
警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊廃油，燃料，冷却水(不凍液)，冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

エンジンオイルの交換

■排油のしかた

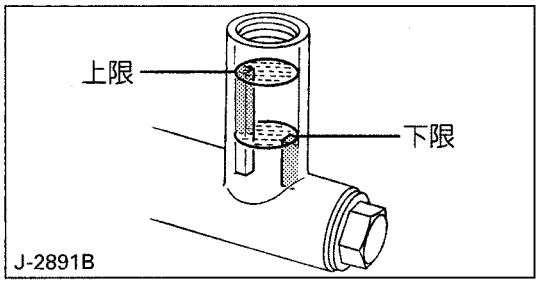
機体を水平にして，延長カバー，給油プラグを外し，そのあと排油プラグを取外し，排出してください。



■給油のしかた

交　換		オイル量	オイルの種類
第1回目	以　後		
20時間使用後	100時間使用ごと	0.3L	クボタ純オイル(ガソリン，エンジン用) 冬G20，夏G30

本機を水平にし，エンジンオイルを給油口のレベルゲージで確認しながら，上限まで給油します。

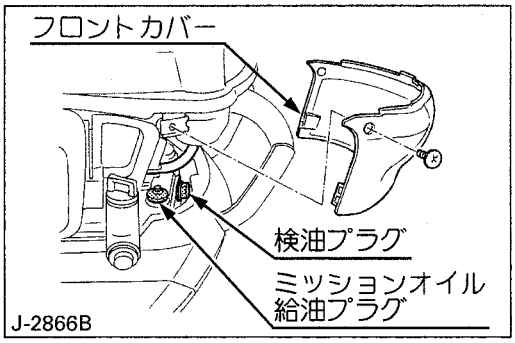


ミッションオイルの補充

■補充のしかた

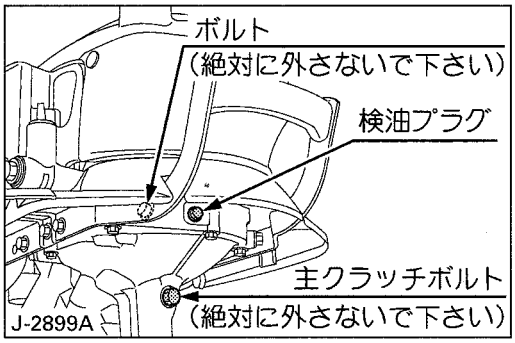
❶機体を水平にし，検油プラグを外します。
❷フロントカバーを外します。
❸ミッションオイル給油プラグを外し，新しいオイルを検油プラグからあふれるまで補充します。

オイル量	オイルの種類
0.8L	G20又はG30 (ガソリンエンジン用)



重　要

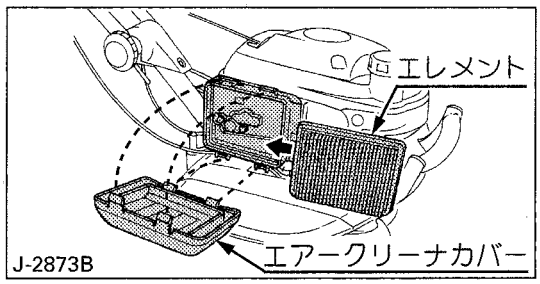
＊主クラッチボルト及び下図のボルトは検油プラグではありません。主クラッチ不良などのトラブルにつながる恐れがありますので絶対に外さないでください。

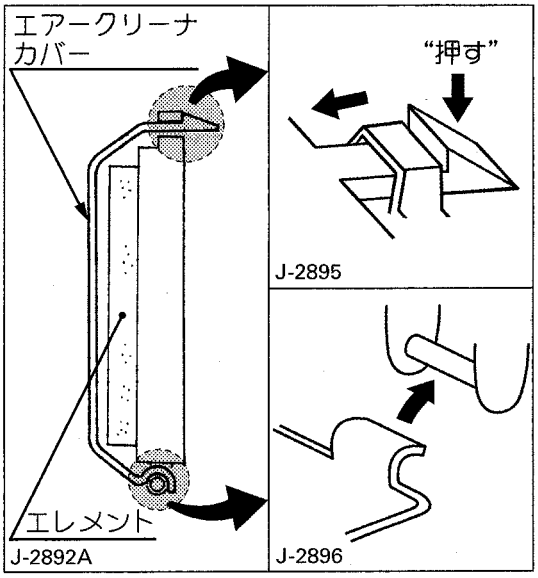


エアークリーナエレメントの清掃

❶エアークリーナカバーを取外し，エレメントを取外します。エアークリーナカバーの取外しは，爪を押しながら上部を外した後，下部の合わせ部を離して行ないます。

❷エレメントは内側から圧縮空気を吹きつけるか，または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。





重 要

＊汚れたまま使用しますと，エンジンの出力低下や故障の原因になります。

エレメント	清掃	通 常	50時間ごと
		ホコリの多い場合	毎 日
	交換	1年間又は300時間ごと 汚れがひどいとき	

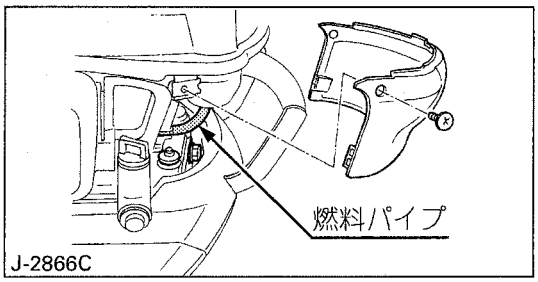
＊エレメントの着脱は風の少ないところで行ない，キャブレターの中にゴミが入り込まないよう注意してください。

燃料パイプの交換

警 告

＊燃料パイプは自然劣化したり傷があると，ガソリン漏れして火災の原因となります。ヒビや割れが発生したものは新しい燃料パイプと交換してください。

交 換	2年間ごと



燃料の抜取り

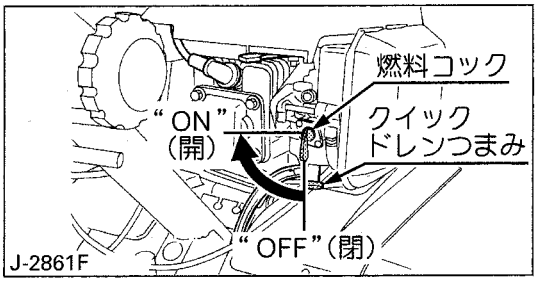
注 意

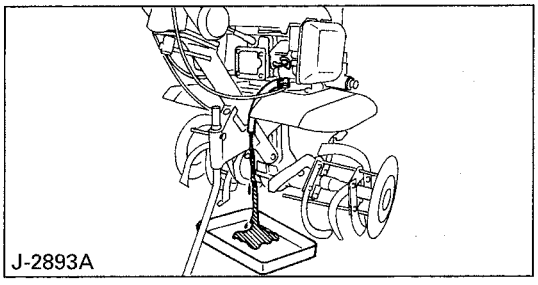
＊燃料がこぼれたときは，きれいにふき取ってください。

❶燃料コックを**"ON"(開)**にします。

❷キャブレターのクイックドレンつまみをゆるめ，燃料を抜き取ります。

❸燃料を抜き終えたら燃料コック，クイックドレンつまみを閉めます。





点火プラグの調整・清掃・交換

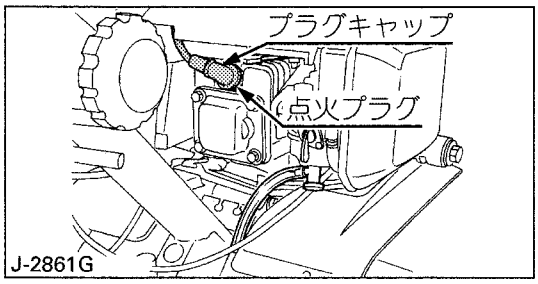
注 意

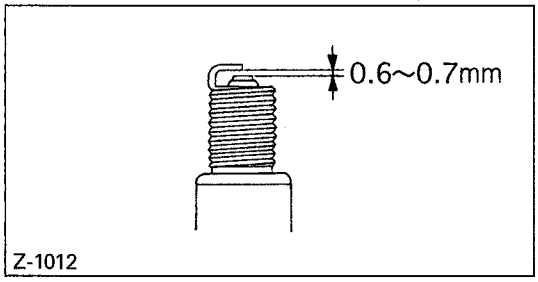
＊必ずエンジンを停止してください。

❶エンジンを停止し，プラグキャップを外し，プラグ用ボックスレンチでプラグを外してカーボンを清掃します。

❷電極のすきまが0.6～0.7㎜になるように調節してください。

調　　節	100時間使用ごと
点火プラグ	C4HSB(NGK)，U14FS-UB(DENSO)





重 要

＊締付け時は，ネジ山をつぶさないよう，はじめ手で締込んでから，プラグボックスレンチで締付けてください。

＊調節・清掃してもエンジンが不調のときは，新しいプラグと交換してください。

＊プラグを外したまま始動しないでください。

主クラッチケーブルの調節

注 意

＊主クラッチを調節するときは，必ずエンジンを停止して行なってください。

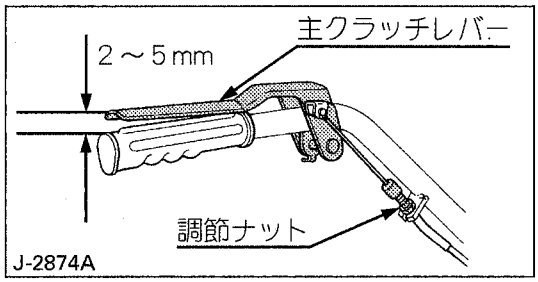
重 要

＊エンジン停止時，主クラッチレバーを握っても，握れないことがあります。本機を前後に移動させながらレバーを握ってください。

❶主クラッチを入れた状態でクラッチレバーの遊びを調節します。

❷調節はケーブルの調節ナット（２コ）で調節金具を前後して行ないます。

❸調節後，調節ナットを確実に締付けてください。



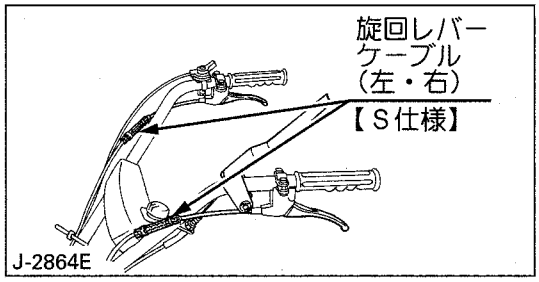
旋回レバーケーブルの調節【S仕様】

旋回レバーを握っても切れにくい場合，又旋回レバーを離しても入りにくい場合は，調節金具で調節します。

❶調節はレバーを握って，ハンドルとのスキマを１～３㎜程度にしてください。

❷スキマが大きいときはそれ以上握ることができません。握って左側，右側共に切れれば良好です。

❸調節後，確実にロックしてください。



ナタ爪ロータ【C仕様】・フルカットロータ【C2仕様】・移動輪の取付け方

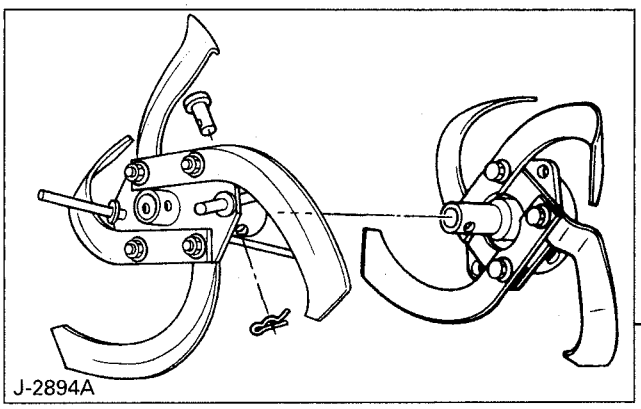
注　意

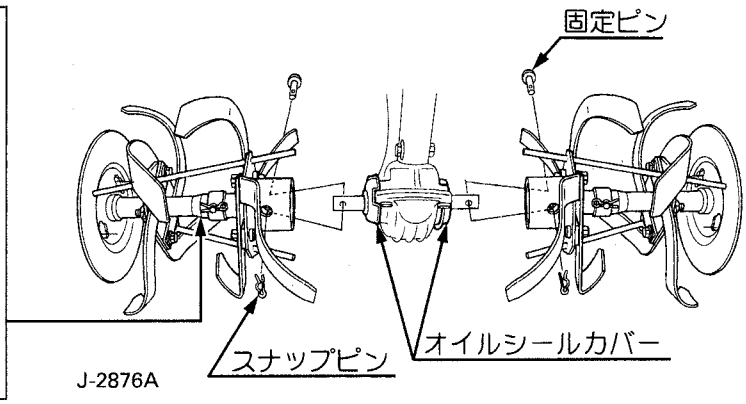
＊作業機の交換・調整をするときは必ずエンジンを停止してください。

重　要

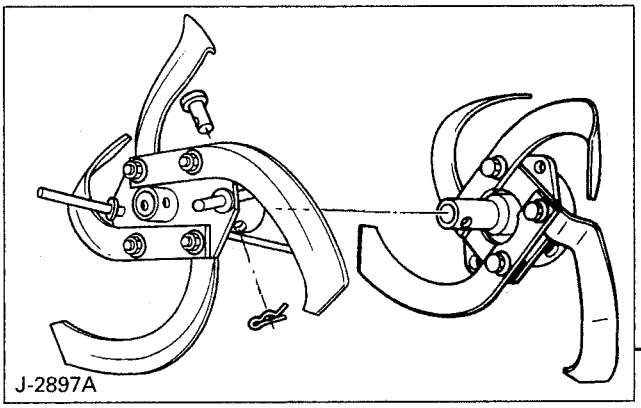
＊ロータを交換するときは，必ず燃料コックを“OFF”(閉)にしてください。

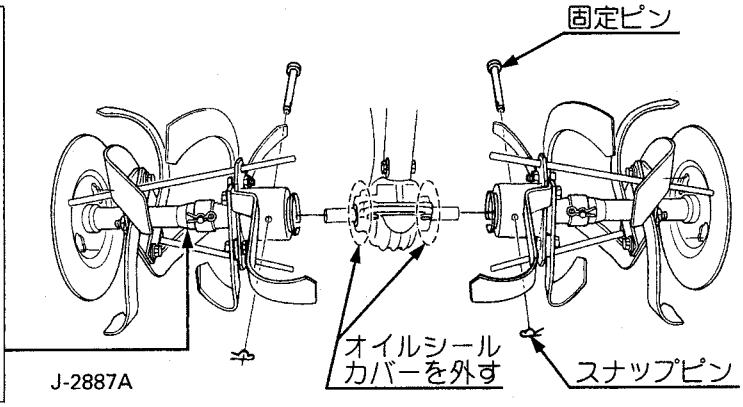
◆分割型ナタ爪ロータ【C仕様】は下図のように固定ピンを差込み，スナップピンで固定します。



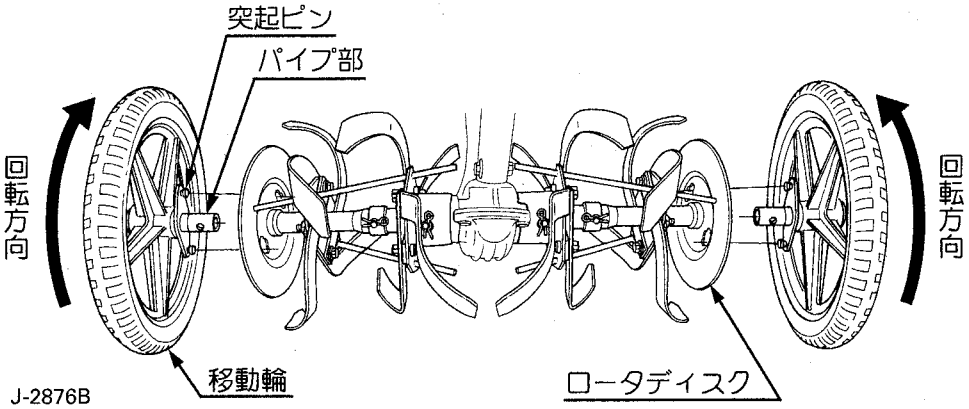


◆分割型フルカットロータ【C2仕様】はオイルシールカバーを外し，下図のように固定ピンを差込み，スナップピンで固定します。

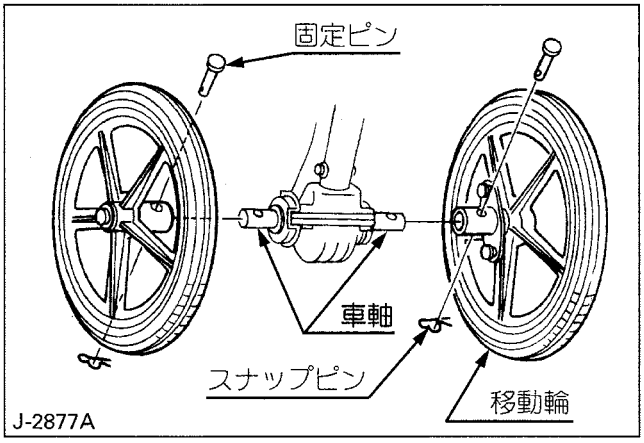




◆移動輪をロータディスクに取付けるときは，下図のように移動輪のパイプ部及び2箇所の突起ピンをロータディスクの穴に確実に差込み，前後いずれかの方向に回転させてください。(固定ピン及びスナップピンは不要です。)



◆ロータを外して移動輪を車軸に取付けるときは，下図のように固定ピンを差込み，スナップピンで固定します。
●移動輪のみ(狭いあぜ道を移動するときなど)



洗車時の注意

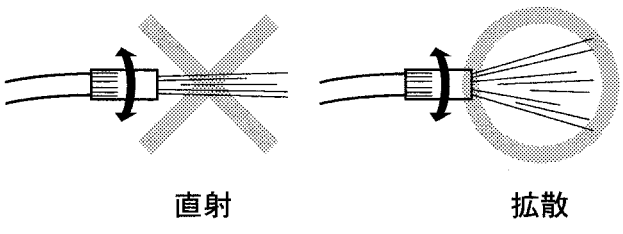
高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注 意

＊機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

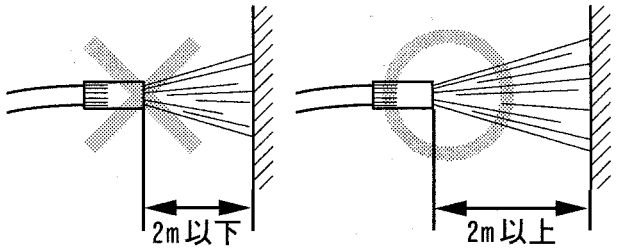
❶電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
❷油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
❸機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例)(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

5. 作業が終わったら

使用後の手入れ

使用後は，必ずその日のうちに清掃を行ない，各部に付いている土やゴミを落とし，各しゅう動部はさびないよう油を塗布してください。

重 要

＊水洗いのとき，エアークリーナ吸込口から水が入らないようにカバーをしてください。

エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後，必ず燃料コックを閉めてください。

重 要

＊燃料コックを開いたままの状態で，保管したり，前に倒したり，また車両で運搬したりすると，エンジン始動が困難となる場合があります。また，クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

保　管

注 意

＊カバーをかけたり，納屋に格納するときは火災の危険があるため，エンジンが冷えてからにしてください。

(1)エンジンのシリンダ内に湿気が入って，始動が困難になるのを防止するためリコイルスタータを引張って，圧縮位置で止めておきます。
(2)燃料タンク・キャブレターの中のガソリンは全て抜取ります。（１ヵ月以上使用しないとき）
(3)カバーをかけて湿気や太陽光線の少ない場所に保管してください。

重 要

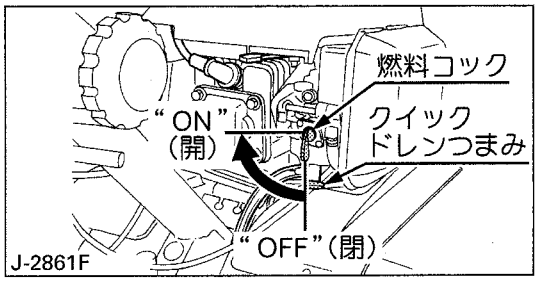
＊ほ場(田，畑)に保管していると，地面からの湿気により，車体等の錆びる原因となります。

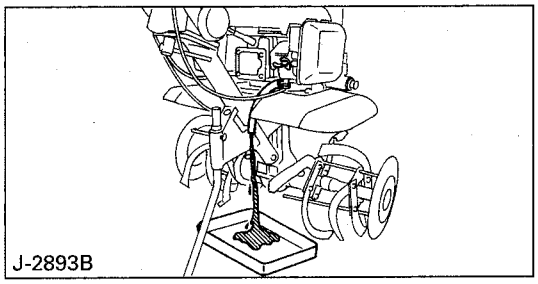
燃料の抜取り

警 告

＊燃料がこぼれたときは，きれいにふき取ってください。

１ヵ月以上使用しないとき，燃料タンク内のガソリンはポンプなどを使用して抜取り，キャブレター内はクイックドレンつまみをゆるめて全部抜取ってください。





重 要

＊燃料をそのままにしておくと，燃料タンクやキャブレター内のガソリンが腐って，次の始動が困難になります。

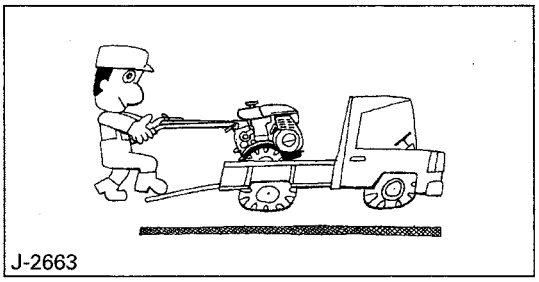
6. 管理機を運搬するとき

自動車(トラック)への積込み，運搬

注 意

＊あゆみ板は，丈夫なすべり止めのあるものを使用してください。
＊トラックは，荷台に天井が無い車を使用してください。
＊車軸にロータ爪や鉄車輪を装着しての走行は危険です。移動輪に交換してください。
＊ロータを装着して，あゆみ板の上り，下りは危険です。絶対にしないでください。
＊自動車のトランクでの移動はしないでください。危険です。

(1)トラックを平たんな場所に止め，駐車ブレーキを掛けます。
(2)あゆみ板を荷台に確実に固定します。
(3)ロータを装着しているときは，移動輪，または突起の小さい車輪と交換して行なってください。
(4)上り，下りはエンジンを停止して，主クラッチレバー及び旋回レバー**【S仕様】**から手を離して行なってください。
(5)機体は荷台にロープで確実に固定します。
(6)機体にロープを掛けるときは，後部ヒッチ・前部プロテクター(取っ手)・ハンドル部２ヵ所を固定してください。
(7)燃料コックは**“OFF”(閉)**にします。
(8)雨天時には，カバーをかぶせてください。


J-2663

重 要

＊ロープを掛けるとき，樹脂カバー，小物部品にロープが触れないように気を付けてください。
破損したり機能が損なわれる恐れがあります。
＊エアークリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると，雨水や砂ホコリが入りエアークリーナ性能が低下します。
＊燃料コックを**“ON”(開)**の位置で運搬すると，キャブレター内でガソリンがオーバフローし，エンジン始動が困難となります。またクランクケース内にガソリンが流入することもあります。

7. 付　記　● 主要諸元・標準付属品・主な消耗部品一覧表

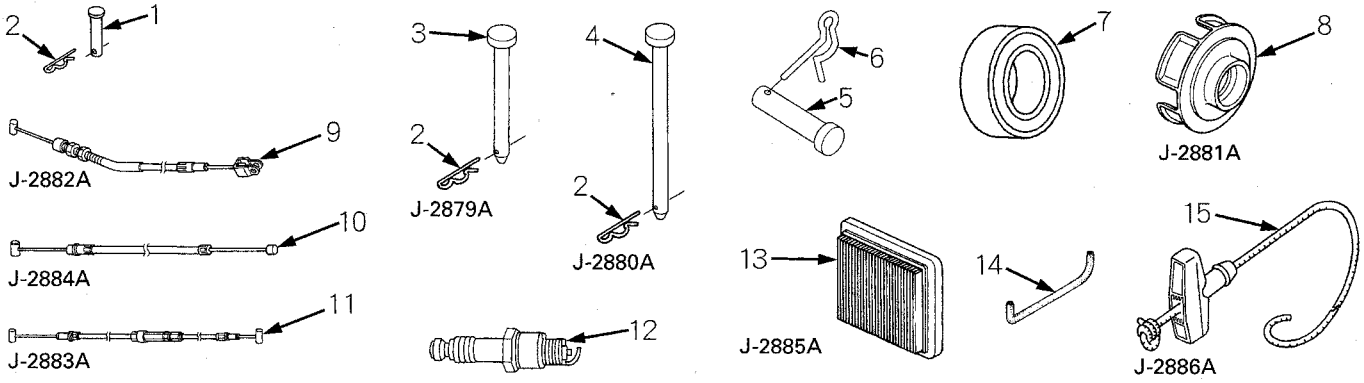
■主要諸元

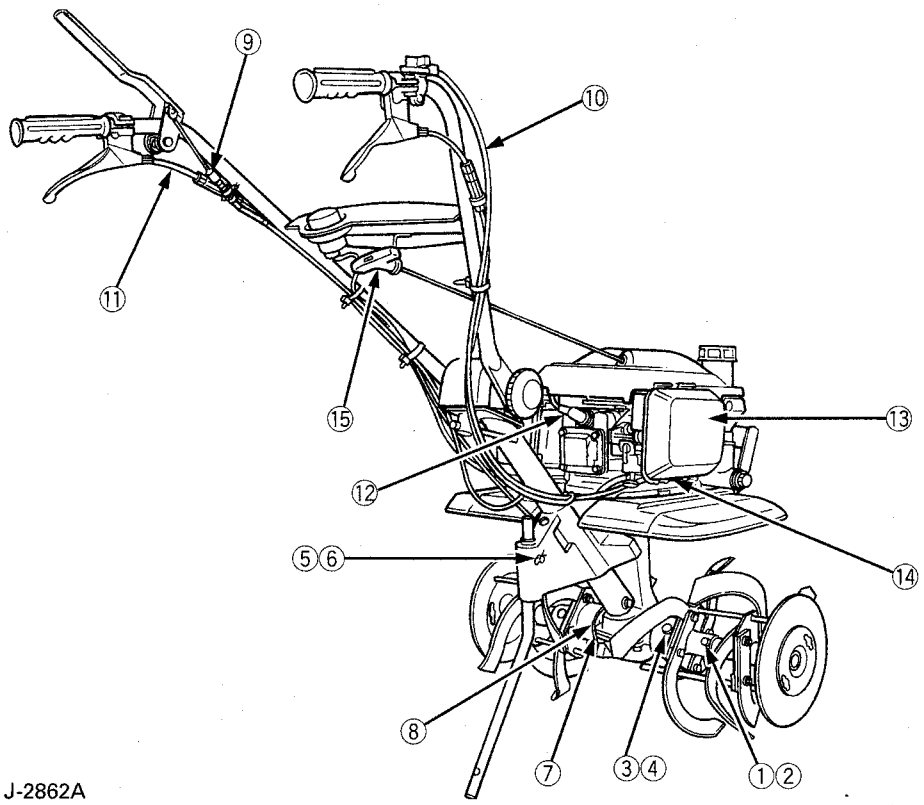
型式名		クボタ　TMA300
機体寸法	全長(mm)	1150
	全幅(mm)	525（ハンドル外幅）
	全高(mm)	940
質量(kg)		32　(C仕様)
		33　(SC仕様)
		34　(C2仕様)
エンジン	呼称	クボタGH60V-T
	型式名	GXV57
	種類	空冷4サイクル立軸型OHVガソリンエンジン
	総排気量L(cc)	0.057(57)
	連続定格出力 kW/rpm (PS/rpm)	1.0/4000 (1.4/4000)
	最大出力 kW/rpm (PS/rpm)	1.8/4000 (2.4/4000)
	使用燃料	自動車用レギュラーガソリン(無鉛)
	燃料タンク容量 (L)	0.7
	点火方式	トランジスタマグネト
	始動方式	リコイルスタータ
動力伝達方式		直結遊星ギヤー式
主クラッチ方式		ボール式
手元クラッチ操作方式		握り式
旋回レバー方式【S仕様】		ボール式
変速段数		前進　1段
車軸回転速度(rpm)		117
ハンドル上下調節		菊座式
ハンドル左右回動		左右各1段
標準ロータ耕うん幅(cm)		54

■標準付属品

品名	数量／台	備考
レンチ(プラグボックス)	1	
取扱説明書	1	
組立要領書	1	
保証書	1	

■主な消耗部品一覧表





J-2862A

図番	品　番	品　名	適用機種
1	61141-1713-0	車軸ピン	全機種
2	05515-50800	スナップピン	全機種
3	LK011-6617-0	ピン	C仕様
4	LK011-6717-0	ピン	C2仕様
5	05122-50845	アタマツキピン	全機種
6	05516-50800	スナップピン	全機種
7	61141-1714-0	オイルシール	全機種
8	LK011-1281-0	カバー(オイルシール)	C2仕様を除く(全機種)
9	LK011-4201-0	ケーブル(主クラッチ)	全機種
10	LK011-4322-0	ケーブル(スロットル)	全機種
11	LK012-4332-0	ケーブル(旋回クラッチ)	S仕様
12	E1199-0127-0	スパークプラグ	全機種
13	E1199-1112-0	エレメント(エアクリーナ)	全機種
14	E1199-4432-0	チューブ(A，フューエル)	全機種
15	E1199-6116-0	ロープ	全機種

8. トラブルと処置

■エンジンが始動しない

原　因	処　置
●始動の手順が間違っている	➡ 正しい順序で始動する。(エンジンの始動のしかたの項参照)(P6)
●タンクにガソリンを入れたまま1ヵ月以上保管しガソリンが腐った。	➡ タンク・キャブレター内の腐ったガソリンを排出し，新しいガソリンを入れる。
●チョークを引いた(閉じた)状態でリコイルを何回も引過ぎガソリンを吸いすぎた。	➡ チョークを戻し(開き)リコイルを引くか，点火プラグを外して乾燥させる。
●エンジン停止後，燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり，車両で運搬したためキャブレターがオーバフローした。	➡ クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
●エアークリーナエレメントが目詰まりしている。	➡ エレメントを外して清掃する。または新しい物と交換する。
●点火プラグの火花が弱い，飛ばない。	➡ 点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または，新しい物と交換する。

■エンジンの回転が上がらない，不安定，出力が不足する

原　因	処　置
●エンジンが暖まってもチョークを引いた(閉じる)まま運転している。	➡ チョークを戻す(開く)。
●エアークリーナエレメントが汚れている。	➡ エレメントを外して清掃する。
●アクセルケーブルの引張りが不足している。	➡ ケーブルのセット位置を調節する。

■異音がして，車軸が回転しない

原　因	処　置
●主クラッチケーブルの調節不良。	➡ 正しく調節する。(主クラッチケーブルの調節の項参照)(P12)
●緩衝装置が働いている。	➡ 緩衝装置が働いた場合の項参照。(P9)

■ハンドルのガタが多い

原　因	処　置
●ハンドル部のガタが多い。	➡ **“ハンドル高さ調節ノブ”・“ハンドル回動レバー”**を締直す。

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは，購入先にご相談ください。

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名　　担当　　電話（　　）　　ー		
ご購入日	型式名	区分
車台番号(製造番号)	エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	白山市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)39-3181	〒689-3547	米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部：電(072)241-8092	〒590-0823	堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　　〒556-8601

品番 LK011-6512-4

Kubota